



# A-TIC

広報誌エーティック・プレス

# PRESS

## Our Team Is Our Future.2026



株式会社 エーティック

SINCE1973

### 「なくてはならない人材」を育てるために

令和8年を迎え、皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げますとともに、今年1年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

当社は、令和5年度に策定した長期ビジョンに基づき、6年度は社員のキャリアプランの策定作業を進めました。7年度からは、新人と若手、中堅、マネジメント層の各年代に応じた研修を行い、社会人としてのモラルとセンスを再確認し、社員それぞれが自分の人生における目的をしっかりと言語化し、その目的を達成するための方法を考えてもらいました。

また、こうした取組と並行して、新たな人事評価制度を確立するための作業も進めてきました。既存の評価制度を使いながら、客観的な判断ができるような評価システムを構築し、今年の春から試行運用する考えです。

人材を的確に評価するために、求める人物像として「専門スキル」「自律」「協働・協創」「コラボレーション」という4つの評価項目を挙げています。専門分野で卓越した技術を持ち、自身のキャリアプランへの責任を意識し、顧客に対して仲間とともに的確な課題解決の方策を提案し付加価値を生み出す、という視点です。

的確な人事評価は、社員の働く意欲と会社への帰属意識を高め、人材の育成や定着、企業が成長していくための原動力として非常に重要です。弊社は総合建設コンサルタントとして、専門技術はもちろん、発注者のニーズを的確に把握し、円滑なコミュニケーションを築く力、そしてそれを的確に伝えるプレゼンテーション能力を最重視してきました。こうした能力を持つことで、顧客との信頼関係を築き、顧客にとって「なくてはならない会社」に進化することができます。

「エーティックで働いて良かった」「この仕事ができて良かった」と思う社員が増えていけば、それが当社の新しい「文化」になります。「なくてはならない人材」を育てていくために、新しい人事評価システムを的確に試行運用し、未来に向かっていきます。



代表取締役社長 舟田 幸太郎

## 「北海道開発局、札幌開発建設部及び北海道防衛局」から表彰を受けました。

当社は2025年度に北海道開発局や札幌開発建設部、北海道防衛局から、卓越した技術が高く評価されて表彰を受けました。北海道開発局からは優良工事等表彰で局長表彰、札幌開発建設部からは部長表彰、そして開発局からはi-Con奨励賞を2件受賞しました。また、北海道防衛局からはJVの一員として優秀工事等顕彰を受けました。今回の受賞を機に、一層の技術研鑽に努め、発注者の方の期待にしっかりと応えていきます。

### 【北海道開発局長表彰】

- 業務名：一般国道5号仁木町道路附属物設計外一連業務(小樽開発建設部)  
管理技術者：熊谷 幹也

### 【札幌開発建設部長表彰】

- 業務名：一般国道231号石狩市床丹覆道点検業務  
管理技術者：成沢 郁夫

### 【北海道開発局 i-Con 奨励賞表彰】

- 業務名：一般国道238号稚内市声問自転車通行帯施工計画検討外一連業務(稚内開発建設部)  
管理技術者：神元 貴也
- 業務名：一般国道238号雄武町雄武橋補修設計外一連業務(網走開発建設部)  
管理技術者：熊谷 幹也

### 【北海道防衛局優秀工事等顕彰】

- 業務名：北海道防衛局管内(5)土質調査(その1)  
担当技術者：港 高学



令和7年度  
北海道開発局優良工事等表彰式  
北海道開発局長表彰



札幌開発建設部 優良工事等表彰式  
札幌開発建設部長表彰

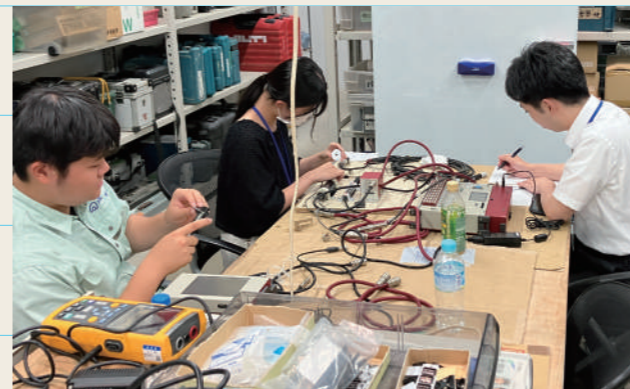


i-Con 奨励賞表彰



北海道防衛局優秀工事等顕彰

## ▶ インターンシップを実施しました



5日間に渡ってさまざまな体験をしました

北海学園大学工学部と室蘭工業大学から各1名の学生を招いて、8月25日から29日の5日間、インターンシップを実施しました。各部・課の担当者から仕事の概要などについての説明や現場見学などを行い、建設コンサルタントの役割や当社の特徴などを学んでもらいました。プログラミングや機器を使っての体験や、現場見学では、札幌市定山溪でコア観察体験などを行いました。学生からは「とても充実した5日間を過ごさせていただきました」といった感想が寄せられました。

## ▶ 舗装新技術研究会

### エキシビションにブース出展

8月27日から29日に渡って北海道科学大学で開かれた第30回舗装工学講演会に伴ってNPO法人舗装新技術研究会が実施したエキシビションにブースを出展しました。ブースでは、当社が全道各地のトンネルで行っている計測技術を紹介するとともに、当社の持つ豊富なノウハウと最新技術を融合させ、業務適性に応じた最適のソリューションを提供し、インフラの未来を支えていることを会場を訪れた学生らにPRしました。



## 道内トンネル文献あれこれ

令和7年7月～令和7年11月において、専門雑誌等に発表された、北海道内のトンネルに関する論文・報文等のリストを紹介します。トンネル関係者の方々へ最新情報を提供いたします。なお、詳細を知りたい方は弊社までお問い合わせ下さい。

### 国道・道道他

- 1 山田剛史, 高橋民雄, 肥後宏紀, 田村学: レール方式の小断面トンネルにおける断層破砕帯と坑口部の函館本線直下の施工—北海道縦貫自動車道大沼トンネル避難坑峠下工区一, トンネルと地下, Vol.56, No.9, pp.7-18, 2025.
- 2 山田剛史, 高橋民雄, 丸山貴久, 岡崎雄一: 熱水変質を受けた低強度地山における円形二重支保工の採用と高被圧湧水対策—北海道縦貫自動車道大沼トンネル避難坑西大沼工区一, トンネルと地下, Vol.56, No.9, pp.19-27, 2025.
- 3 須藤敦史, 佐藤京, 五十嵐隆浩, 河村巧: 寒冷地(北海道)トンネル覆工(材料)の施工時期・方法における劣化遷移の相違について, 第35回トンネル工学報告集, 第35巻, 1-10, 2025.
- 4 禰和英, 須藤敦史, 佐光正和, 五十嵐隆浩: 寒冷地のトンネル覆工表面のひび割れにおける統計的法則(フラクタル次元)について, 第35回トンネル工学報告集, 第35巻, 1-11, 2025.

### 高速道路

- 5 手塚聡正, 永田常雄, 古保直紀, 中村広美, 大谷穂高: 道東自動車道4車線化工事における供用線近接工事および厳冬期の品質確保—道東自動車道新得工事 広内トンネル—, 第96回(山岳)施工体験発表会論文集, pp.79-86, 2025.

### 新幹線・鉄道

- 6 岡村貴彦, 諏訪至, 若公雅敏, 中西諒: 河川直下を最小かぶり1.5mでトンネル掘削—北海道新幹線 磐石トンネル(北工区)一, トンネルと地下, Vol.56, No.10, pp.7-18, 2025.
- 7 若公雅敏, 平岩大亮, 井上正広, 村山幸幸: 大規模崩落の発生と対策(その1)—北海道新幹線 野田生トンネル(北工区)一, トンネルと地下, Vol.56, No.11, pp.7-18, 2025.
- 8 太田雄, 荒井健伍, 矢萩勝暁: 供用開始後に継続的な地圧により変状した鉄道トンネルの維持管理—JR石勝線 登川トンネル—, トンネルと地下, Vol.56, No.11, pp.19-25, 2025.
- 9 米澤和人, 明石太郎, 浅田浩章, 平岩大亮, 三河内永康: 地表面陥没を伴うトンネル崩落後の特殊条件区間における施工について—北海道新幹線 野田生トンネル(北)他工事—, 第96回(山岳)施工体験発表会論文集, pp.17-24, 2025.
- 10 阿部正汰, 岡村貴彦, 山田聡史, 諏訪至: 河川直下最小かぶり1.5mでのトンネル掘削—北海道新幹線 磐石トンネル(北)他—, 第96回(山岳)施工体験発表会論文集, pp.87-94, 2025.
- 11 池村幹生, 中島健太, 油井敦弘, 森小次郎: 吹付けコンクリートの自動施工技術の開発, 第35回トンネル工学報告集, 第35巻, 1-19, 2025.
- 12 大坪宏行: 北海道新幹線 渡島トンネル(上二股), 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.77, pp.1-10, 2025.
- 13 城隆史: 北海道新幹線 立岩トンネル(ルコツ)工事, 北海道土木技術会トンネル研究委員会会報, No.77, pp.11-17, 2025.

### その他

- 14 編居公介, 西谷友幸, 藤枝大吾, 戸賀瀬和輝: 大深度地下の立坑および水平坑道掘削におけるメタンガス発生対策および施工合理化への取り組みについて—幌延深地層計画地下研究施設整備(第III期)等事業—, 第96回(山岳)施工体験発表会論文集, pp.56-63, 2025.
- 15 池田奈央, 工藤瑠偉, 長江優介, 荒井靖仁, 村山幸幸, Gyeongjo MIN, 福田大祐, 児玉淳一: 孔径変化法を用いたトンネル初期応力の多点計測, 第35回トンネル工学報告集, 第35巻, 1-38, 2025.

16

技術者列伝

田中 豊

中編

～近代橋梁工学の基礎を築いた理論家～



Yutaka Tanaka

土木学会附属土木図書館 提供

関東大震災により復興院への異動となった田中豊は、その後7年に亘って隅田川六大橋や東京・横浜の市街橋梁の復興に没頭します。復興院での事業は太田圓三らに贈収賄容疑(復興局疑獄事件)がかかり、その当初段階から一頓挫することとなり、田中豊の役割は益々大きくなっていったのです。膨大な数の橋梁設計・施工に携わり、田中の橋梁技術者としての名声は高まります。

## ○復興局での業務

1924(大正13)年、帝都復興院が廃止され内務省外局として復興局が設置されます。鉄道省から現場技師の釘宮馨、ベテラン技師の小室親一らが参加して、成瀬勝武、福田武雄達大卒若手技師を支える体制がとられました。復興局では東京市内だけで115橋、合計160橋余という驚異的な数の橋梁設計を担当していました。橋梁設計未経験の若手技術者を育成しつつ膨大な設計を行っていたのです。大多数の小規模街路橋を効率よく設計するため、田中は「復興局型」と呼ばれる標準型ラーメン橋台を考案します。これは橋台敷地取得が進まない状況下で、両岸への影響を抑えた構造だったのです。また、下部工施工の間に上部工設計を実施し、下部工完成時に上部工の施工を開始する工程とし、当時としては画期的な方法で工期短縮に努めました。

## ○隅田川六大橋の設計

隅田川には一つとして同じ橋がないと言われるほど様々な型式の橋梁があります。当時、復興局は様々な技術的試行やデザインを採用したのです。橋梁型式は太田圓三や田中豊が方針を決め、田中とベテラン技師らが多い若手技術者を指導・指揮した中で設計を行いました。隅田川6橋は何れも橋長200m前後の鋼橋ながら、被災後わずか5年で設計・再建が為されました。また、そのうち5橋は現在も活用されています。



残存する復興局型橋梁 太田橋：横浜大岡川



永代橋(大正15年完成)



清洲橋(昭和3年完成)

太田の主導の下、隅田川六大橋をはじめとした主要橋梁の設計方針は新しい造形・新しい構造を目指すものでした。理論家の田中はこれらを具体化し現実的な設計へと昇華させる役割を担いました。復興局時代は、田中が本格的に橋梁設計に携わった時期であり、太田の考え方が大きな影響を与えたと思われます。田中は後に「六大橋の型式選定に当り、最も進歩せる型式を採用し、これを適切に案配した」と述べています。これは最新技術を野心的に追求した田中の設計思想そのものです。

永代橋はドイツのルーデンドルフ鉄道橋、清洲橋はヒンデンブルク橋(共に第二次世界大戦で崩壊)がモデルと言われ、田中の留学時の資料が大いに役立ったと考えられます。ペアでデザインされた2橋は共に重要文化財に指定されています。

永代橋はタイドアーチとカンチレバーの組み合わせでデュコール鋼(戦艦装甲にも使用された低マンガン鋼)を使用鋼材とした、耐久性が高い新技術が導入されました。また、橋脚基礎へニューマチックケーソン工法を採用(永代橋が国内導入初)し有用性を実証しました。

復興局在籍時には新潟の萬代橋の設計も依頼されています。設計は復興局技術者と東大助教授を兼任していた福田武雄に任せますが、田中は「記念になるものを設計するように」と命じています。萬代橋は潮風の影響を考慮して鋼橋ではなく鉄筋コンクリートアーチ橋とし、当時のコンクリート構造物としては国内最大を誇りました。当橋のアーチ構造は蔵前橋の設計手法とほぼ同じとなっています。

## ○復興局疑獄事件の影

1924(大正13)年夏、復興事業が進み始めた矢先、土地買収をめぐる贈収賄事件(復興局疑獄事件)が発覚します。多数の検挙者を出した事件の渦中には復興局土木局長として隅田川六大橋設計を主導した太田圓三の名もありました。太田は帝都復興にあたり馬車から車社会への転換を予測、さらに地下鉄の必要性を説き、現東京交通網の基礎となる大胆な土地区画整理を進めたのです。当時、区画整理に対する住民理解は低く、大変風当たりが強い中での事件であり、内務省復興局は「汚職の伏魔殿」と強く非難されます。1926(大正15)年、太田は事件の心労で45歳の若さで自ら命を絶ったのです。復興事業に田中を引き抜いた太田の死は、今も残る偉大な業績の影の部分でもあるのです。



井形 淳 設計部 技師長 工学博士 / 技術士(建設部門)

今回は復興局時代の田中豊についてご紹介いたします。この時代は田中豊の功績においてハイライトとなる瞬間であり、今も残る隅田川の橋梁群がモニュメントとなっています。10年余りの短い期間に建てられたこれら名橋の数々も併せてご紹介いたします。



駒形橋(昭和2年完成)



蔵前橋(昭和2年完成)



萬代橋(信濃川：昭和4年完成)

隅田川六大橋の型式

- 相生橋(3径間鋼トラス桁橋：大正15年完成→架替え済)
- 永代橋(下路式スチールアーチ橋：大正15年完成)
- 蔵前橋(3径間連続上路式ソリッドリブ2ヒンジアーチ、上路式コンクリート固定アーチ：昭和2年完成)
- 駒形橋(中路式ソリッドリブタイドアーチ橋、上路式ソリッドリブタイドアーチ橋：昭和2年完成)
- 言問橋(鋼3径間ゲルバー-鉸桁橋：昭和3年完成)
- 清洲橋(自碇式鋼鉄製吊橋：昭和3年完成)

1967年札幌市生まれ。1993年室蘭工業大学大学院建設システム工学修了、1996年室蘭工業大学大学院建設工学修了。北海道開発局開発土木研究所を経て、建設コンサルタント会社に勤務。2015年(株)エーティック入社



## エーティック WHAT'S NEW?



地震発生のアナウンスを受け机の下に避難しました



### 防災訓練を実施しました —巨大地震発生を受け迅速に避難

2025年度ACSグループ防災訓練を9月1日に開催しました。十勝沖を震源とした巨大地震が発生し、札幌市内でも震度5の地震が発生したとの想定で、災害時の行動や安否確認などを確認しました。訓練は、午前9時58分、「ただいま札幌市内で震度5の地震が発生しました。社内にいる方は、テーブルや机の下に隠れ、安全を確保してください」とのアナウンスで開始。揺れが収まった後に屋外駐車場へ速やかに避難し、在社メンバーの確認や外業メンバーの安否確認などを迅速に行いました。



### ドローン作成にチャレンジしました —家族懇親会を開催

ACSグループは8月1日、本社協創ラウンジで夏の家族懇親会を開催、社員とその家族約80人が参加しました。社員同士の親睦を深めることで、チームワークやコミュニケーションを向上させるとともに、社員家族に職場の環境や雰囲気などを知ってもらい、家族からの仕事への理解とサポートを得ることなどを目的に毎年8月上旬に実施しているものです。今回は、小学生向けに夏休みの自由研究の題材となるようにドローンキットの作成と操縦体験を行い、参加した子どもたちはご両親と一緒に楽しみました。



アドバイスを受けてドローン作成にチャレンジしました



### 情報セキュリティ研修を開催 —標的型攻撃メール訓練の 振り返りなどを行いました

ACSグループは11月4日、本社協創ラウンジで情報セキュリティ研修を実施しました。当日は、LRM(株)の小林洋介氏と富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)北海道支社営業統括二部ソリューション事業部ソリューション営業4Gの佐藤慎一郎氏を講師として招き、サイバー攻撃に関する情勢とその対応策や、研修に先立って実施した標的型攻撃メール訓練の振り返りなどについて説明を受けました。今後も取り組みをさらに強化するため、継続した研修を実施していきます。



サイバー攻撃の対応などを学びました

## 常設委員会の活動を紹介



当社には、部門間のコミュニケーションの円滑化を図り、技術の共有・向上に向けた意識を醸成するために、3つの委員会を設けています。各委員会は定期的に会合を開催し、それぞれのテーマに沿った取組を進めています。3委員会の活動内容等を紹介します。

### ■社内改革推進委員会

理想の会社を目指し、ACSの推進と職場環境改善に向けた取組を進めています。このうち、職場環境改善部会では、働きやすい職場とするために改善活動を進めてきました。この中で、作業服の更新については、部会での議論と社員の意向調査などを踏まえて、新しい作業服への切り替えを検討し、今年の春から導入する予定です。今の作業服は20年以上前に導入されたもので、一新された作業服は屋外でも快適な作業ができるよう、デザインと品質にこだわりました。少しでも会社のイメージアップにつながれば、と期待しています。



機能と洗練さを兼ね備えた新しい作業服

### ■技術推進委員会

総合建設コンサルタントとして欠かせない、技術力の向上に向けて、Off-JTを主とした勉強会の企画・運営や、近年進化が著しいDXに関する情報収集や活用の検討などを進めています。技術力向上部会では、社内技術発表会の企画・運営や、技術士の取得支援、総合評価の技術提案に関する向上や照査分析などを行っています。また、インフラDX推進部会に関しては、3Dモデルやドローンが広く活用される中で、新たな技術やソフトなどについて研究を重ね、社内情報共有を図っています。



3Dモデルなどの情報収集などを行っています

### ■災害対策委員会

気候変動に伴い、自然災害が激甚化・頻発化する中で、これまでの防災訓練に加えて災害対応向上部会を設置し、自然災害発生時に会社としての確に対応出来るようにバックオフィス社員を含めた対応手順などについて、社内意識と情報の共有化を図る取組を進めています。本格的な活動は来年度以降になりますが、座学による教育に加え、演習による訓練を実施し、会社全体としての自然災害対応力を高め、地域や発注者からの要請に応えることができるような体制を構築していきたいと考えています。



災害への対応力を高める取組を進めています

# A-TIC à la cart



## ■ACSグループ下期安全大会を開催

2025年度ACSグループ下期安全大会を9月19日に本社協創ラウンジで開催しました。舟田幸太郎社長は、「少しでも危ない、このまま進めるともしかしたらという気持ちがあれば、勇気を持って立ち止まる。自分の安全は自分で守り、周りの人間にも声をかけることをしっかり念頭に置いて、この下半期、事故ゼロを続けてほしい」と呼び掛けました。大会の最後には、調査部の中里拓人さんが安全宣言を行いました。



事故ゼロを呼び掛ける舟田社長

## ■ACSグループ技術発表会を開催

第3回2025年度ACSグループ技術発表会を9月19日に本社協創ラウンジで開催し、技術者6人が発表しました。岡田正之専務ら審査委員による選定の結果、最優秀賞は設計部道路河川課の兼平藍璃さん「堀株川水系における水文データ検証とその考察」が受賞しました。また、審査結果発表の前には、「苫小牧高専で行っている構造系の研究」と題し、苫小牧高専の創造工学科都市・環境系松尾優子准教授による特別講演も行われました。



松尾優子准教授による講演の様子

## ■滝野公園で植栽ボランティア

エーティックは6月27日、札幌市内の滝野すずらん丘陵公園で植栽活動を行いました。当社の経営理念の一つ「国土づくりに貢献する」を実践する取組として毎年実施しているものです。当日は社員とその家族、約30人が参加し、マリーゴールドなど3種類の花を東口ゲート前にあるプランターに植え込みました。当社の植栽活動は今回が最後となり、来年度からは会社周辺のごみ拾いボランティア活動を行う予定です。



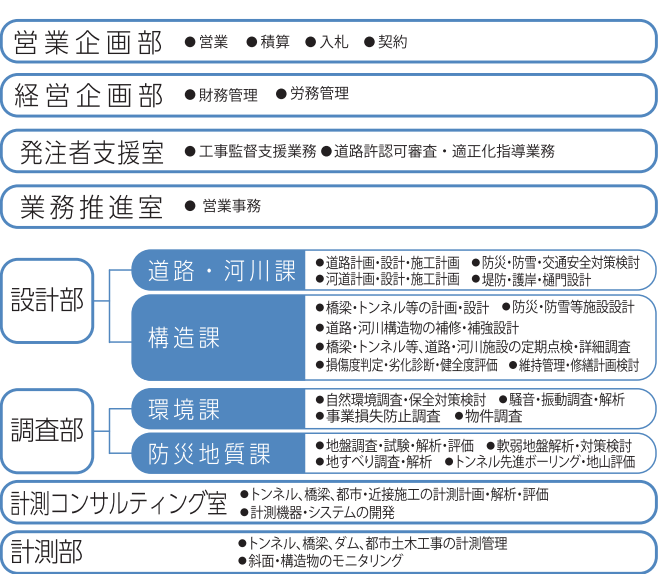
約30人が参加して花植えを行いました

## 株式会社エーティック 会社概要

- 商号 株式会社エーティック
- 代表者 代表取締役社長 舟田 幸太郎
- 所在地 (本社) 札幌市西区二十四軒1条5丁目6番1号
- 創業 昭和48年1月31日
- 資本金 48,000千円
- 従業員 99名
- 事業所 札幌本社 東京支店 函館支店 道央営業所 旭川営業所
- 表彰
 

令和7年	北海道開発局	局長表彰受賞	
	北海道開発局	札幌開発建設部	部長表彰受賞
	北海道開発局	i-Con奨励賞	
	北海道防衛局	優秀工事等顕彰	
令和6年	北海道開発局	局長表彰受賞	
	北海道開発局	札幌開発建設部	部長表彰受賞
令和5年	北海道開発局	局長表彰受賞	
	北海道開発局	小樽開発建設部	部長表彰受賞
	北海道開発局	旭川開発建設部	部長表彰受賞
	北海道開発局	稚内開発建設部	部長表彰受賞
令和4年	北海道開発局	局長表彰受賞	
	北海道開発局	小樽開発建設部	部長表彰受賞
	北海道開発局	網走開発建設部	部長表彰受賞
	稚内建設管理部	優秀現場代理人表彰	

## 組織図



## 編集後記

昨年暮れの青森県の大規模地震、道東の暴風雪被害など、災害に匹敵する異常気象の発生が多いと感じます。夏から秋にかけては東北・北海道でエサを求めた熊が市街地まで出没が多発し、人災まで発生しました。自然に逆らうことはできませんが、今年は異常気象や自然災害が少しでも改善されることを期待します。